

山本大臣閣議後会見

平成25年12月6日

環境エネルギー技術革新計画

(平成25年9月13日 総合科学技術会議)

- 「環境エネルギー技術革新計画」は総合科学技術会議が9月に策定し、先月のCOP19で発表した攻めの地球温暖化外交戦略の技術面の要。
- 我が国は、2050年に世界の温室効果ガス排出量半減（先進国は8割）の目標達成と、途上国の環境・エネルギー問題の克服に貢献。
- 革新的技術の着実な開発と普及により、世界の温暖化問題やエネルギー需給の逼迫等の課題の解決に貢献。

計画策定のポイント

革新的技術の着実な開発と普及の具体化を図るため

- ① 開発を進めるべき革新的技術の特定
- ② 技術開発を推進するための施策の強化
- ③ 革新的技術の国際展開・普及に必要な方策

についてまとめた。

①革新的技術の特定

短中期(2030年頃まで)に開発する技術(例)

高効率石炭火力、次世代自動車 等

中長期(2030年頃以降)の実用化を目指す技術(例)

二酸化炭素回収・貯留(CCS)、バイオマス利活用 等

計画策定のポイント

革新的技術の着実な開発と普及の具体化を図るため

- ① 開発を進めるべき革新的技術の特定
- ② 技術開発を推進するための施策の強化
- ③ 革新的技術の国際展開・普及に必要な方策

についてまとめた。

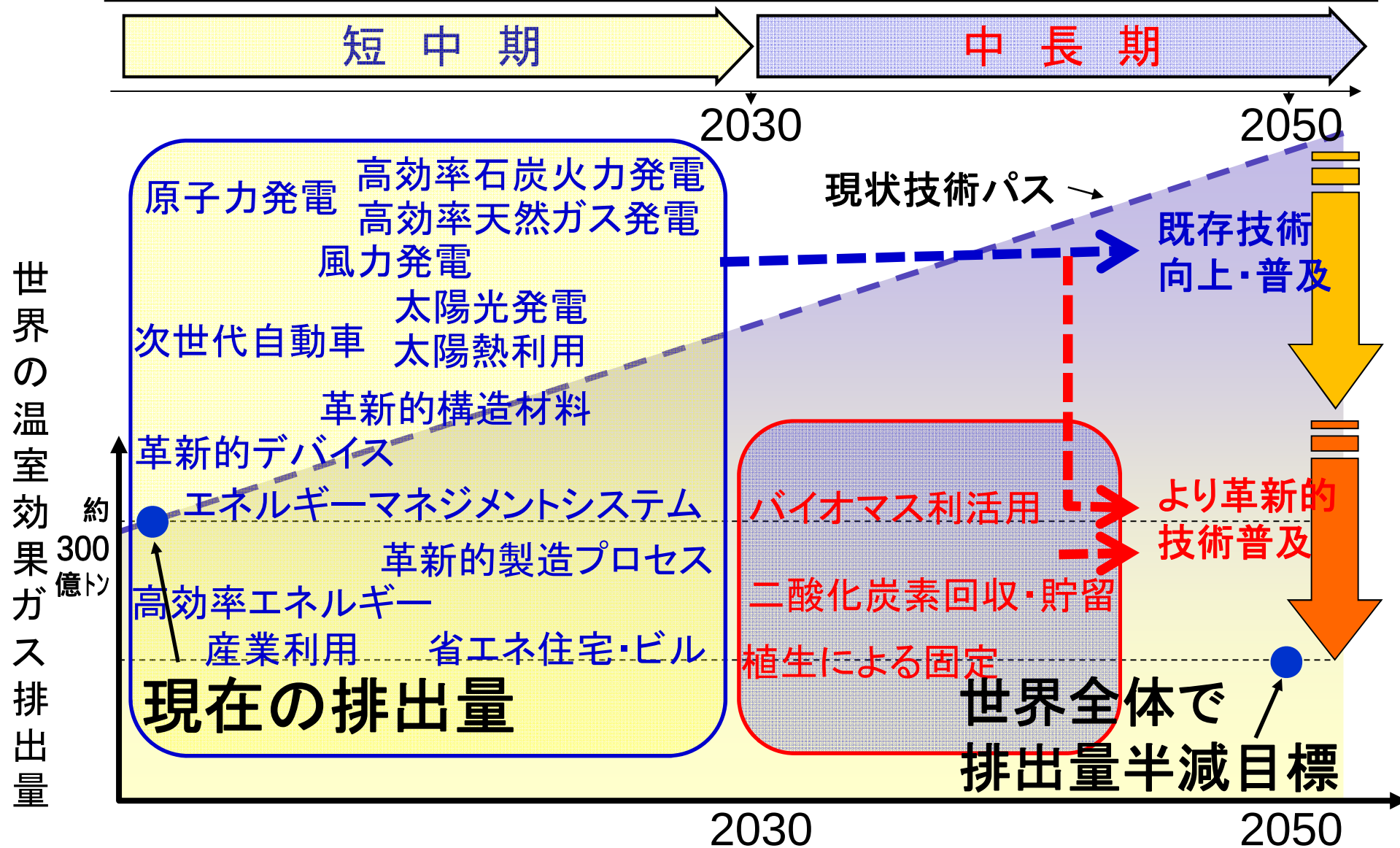
②技術開発推進の施策強化

研究開発投資促進・革新技術のシーズ発掘 等

③国際展開・普及に必要な方策

二国間オフセット・クレジット制度の推進
国際標準化の活用促進 等

我が国の環境エネルギー技術の世界への貢献



世界の温室効果ガス削減効果(2050年)が10億トン以上が見込まれる技術を例示



首相官邸HP(http://www.kantei.go.jp/jp/96_abe/actions/201311/27skgkaigi.html)より転載

第115回総合科学技術会議(11月27日)における安倍総理発言

今月のCOP19において表明した「攻めの地球温暖化外交戦略」の柱は「**技術**」であります。前回の会議で決定した「**環境エネルギー技術革新計画**」は、その要となるものであります。総合科学技術会議におかれては、本計画の実行に向けて、しっかりとフォローアップしていただきたいと思っております。